

授業概要

近代化によってもたらされたひずみが指摘され、東洋思想をみつめなおす動きがおこっている。東洋思想について、その思想の誕生した歴史的背景、思想内容、そしてその思想がもつ現在の意義を、考察する。さらに各思想が世界各地にどのように伝播し、その地に影響を与えているのかについて、世界史的な意義についても講義する。

授業計画

第 1 回	「東洋思想」とは何か
第 2 回	インド思想の成立
第 3 回	釈迦の思想①真理の言葉 1, 2
第 4 回	釈迦の思想②真理の言葉 3, 4
第 5 回	「思想」から「宗教」へ
第 6 回	世界への伝播
第 7 回	イスラーム 基本知識
第 8 回	イスラームの歴史 世界への伝播
第 9 回	身近なイスラーム
第 10 回	中国の思想①
第 11 回	中国の思想②世界への伝播
第 12 回	「ウエスタン・インパクト」と東洋思想①中国
第 13 回	「ウエスタン・インパクト」と東洋思想②ガンディ
第 14 回	ネルーの「非同盟」思想
第 15 回	まとめ「東洋思想」とはなにか
第 16 回	筆記試験

到達目標

東洋思想の重要事項について基礎的知識を習得し、東洋思想に共通する潮流を理解する。思想家、思想の生まれた歴史的背景、それぞれの思想家、思想内容の関連に留意し、現在における影響、現代的意味を理解する。

履修上の注意

「東洋史概説」の履修者がのぞましい。

予習・復習

シラバスに従って思想、あるいは思想家についての基本的な知識を予習しておくこと。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクシオペーパーの内容が 50%、学期末の筆記試験 50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。